



2013年(平成25年)
1月26日
創刊号

天理医学技術学校同窓会報
発行所:〒632-0018
奈良県天理市別所町80-1
天理医療大学内
天理医学技術学校同窓会事務局
TEL: 0743-63-7811
www.teniko-dousoukai.jp

天理医学技術学校同窓会報の発刊について

天理医学技術学校同窓会長

市村輝義



第2期生
関西医療大学保健医療学部 教授・教務部長
前 天理医学技術学校副学校長
専門: 臨床検査学総論

慌ただしい年末年始、皆様にはご健勝で、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

本校が創立して45周年の平成24年3月25日に「四十五周年同窓会総会」および「懇親会」が行われ、新たな同窓会役員が決まりました。その後、何回かの役員会を開き、今後の活動方針、活動目標

等を検討し、その一つとして天理医学技術学校同窓会会報『一手一つ』を発行することと致しました。ご存知のとおり、残り一年三ヶ月で天理医学技術学校での教師教育も終わり、天理医療大学臨床検査学科へ移行することになります。校名はなくなっても同窓生間の情報を密にする一手段として、会報の発行を企画致しました。

会報名の『一手一つ』は、既に天理医学技術学校新聞(1997年〜2007年まで8回発行)の新聞名として使用していたものを、再度、利用させていただくことと致しました。この『一手一つ』は、平成8年(1996年)9月1日の新校舎落成披露時に、3代真柱様からご揮毫を賜ったもので、看護棟4階の体育館兼講堂に掲げられています。神の望む、人々が互いに助け合って(一手一つに)生きていくこと



天理医学技術学校 新校舎

により、人々がその助け合いの中に喜びを感じ、さらには、それが神の喜びとなり、そこに「陽気ぐらし」世界が実現されるという、「陽気ぐらし」のキーワードでもあります。

これから会報は、年に1〜2回の発行を予定し、母校の状況、お知らせ、同窓生の活躍、想い出、情報交換、寄稿などを内容とし、各年度の同窓会の活動・会計報告と事業計画の掲載を予定しています。また、スムーズな編集のために、イラストレータ(ILLUSTRATORCSG、教育版)を購入致しました。ご期待下さい。会報の企画に関して、皆様のアイデアやアドバイスなどをいただきながら、充実し、役に立つ情報会報にしたいと考えています。積極的な話題のご提供等をいただければ大変嬉しく思います。

天理医学技術学校同窓会、天理看護学院同窓会、天理医療大学同窓会が将来、どのような形で継続、発展すべきかも、今回の同窓会役員に課せられた大きな課題と自覚しています。皆様からのご意見を数多くいただき、末永く、互いに切磋琢磨できる同窓会でありたいと考えています。今後とも、皆様のご支援を宜しくお願い致します。



天理医学技術学校 旧校舎 春景色



天理医学技術学校
校章

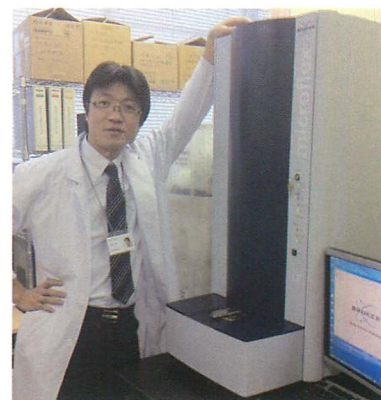
同窓会役員紹介



副会長
木寺英明(第9期生)
天理医学技術学校 教務主任

3年間の天理よろづ相談所病院臨床病理部での実務経験だけで、母校の専任教員に任命され、はや31年が経過しました。学校25周年の時に1度同窓会副会長に就任し、自分より年上の先輩方とも話すこともあり、学校の教員を長くやっているということ、卒業生のほとんどの方々に顔を覚えてもらっているのではないかと思っております。

今回、閉校を迎えるこの時期に同窓会副会長をやらせてもらえたことは、何か因縁めいたものを感じております。微力ではありますが、同窓会員の皆様のために少しでもお役に立ちたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。



事務局長
小松 方(第23期生)
天理医療大学医療学部 准教授

15年前に書記を担当し30周年のお世話どりをさせていただきました。今回は前任者の小林靖雄さん(18期)から引き継ぎまして事務局長として再任しました。私は天理医学技術学校を卒業してから天理よろづ相談所病院臨床病理部感染症検査室に14年間在籍し、その後フアルコバイオシステムズ総合研究所という検査センターの検査管理職を5年間行いました。この度、天理医療大学が開学するという事で大学準備室から着任し開学準備に携わってまいりました。現在は、天理医療大学に教員として在籍しています。

天理医学技術学校は後1年3ヶ月で役割を終え、その伝統を天理医療大学が継承します。そして、天理医学技術学校のスピリッツは私がそのまま学生へ引き継がせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願ひします。



幹事
森嶋良一(第19期生)
奈良県立医科大学附属病院
中央臨床検査部

この度前回の同窓会役員を留任し同窓会幹事をさせて頂きまます19期生奈良県立医科大学附属病院の森嶋良一です。臨床検査技師として天理を離れて現場で働いている立場からで市村会長の下で天理医学技術学校同窓会の発展のため微力ながらお役に立てるよう頑張りたいと思っております、どうぞ宜しくお願ひ致します。



幹事
長岡俊治(第38期、専攻科7期生)
天理よろづ相談所病院
臨床工学技士

同窓会幹事に就任しました天理よろづ相談所病院の長岡です。現在は、主にウェブサイトの管理を担当しています。今回の役員の中では唯一の専攻科卒業生ですのでCEの意見も反映されるようがんばります。よろしくお願ひします。



会計
福田 礼(第42期生)
天理よろづ相談所病院
臨床病理部

天医校を卒業して2年足らずの新米技師ですが、毎日が発見・勉強の連続で、充実した日々を送らせて頂いております！こんな毎日を送らせて頂けているのも、先輩方が築き上げて下さった天理医学技術学校という歴史があつてこそ。先輩方に恩返しができる様、同窓会・会計を精一杯つとめさせて頂きます。



監査
脇本理栄子(第33期生)
天理よろづ相談所病院
臨床病理部

この会報の編集委員を担当することになりました。病院では輸血と血液検査を担当しています。会誌に掲載して欲しいことなどはあれば受付いたします！編集については不慣れなことばかりですが暖かく見守って頂けたらと思います。よろしくお願ひします。

天理医学技術学校閉校のお知らせ

天理医学技術学校(旧天理衛生検査技師学校)は平成26年3月をもって、47年間にわたる臨床検査技師(衛生検査技師)、臨床工学技士を養成する専修学校教育に幕を下ろして閉校します。ご承知の方も多いと思いますが、平成24年4月3日には天理医療大学が開学し、四年制大学として発展していくこととなりましたことを同窓会員の皆様にお知らせします。

本校は昭和42年に天理衛生検査技師学校として開校され、昭和48年に法律改正により天理医学技術学校と改名し、平成13年に臨床工学技士の一年制養成コースである臨床工学専攻科を併設して現在に至っております。

さて、発展的解消といいますが母校が無くなることは、卒業生にとりましても、関係者にとりましても大変寂しいことです。そこで本校の48年間の歩みを振り返り、その実績を後世に伝えることのできる「閉校記念誌」を発行する予定です。その中身で大切なものの一つとして、卒業者名簿があります。幸い各期の卒業写真は学校長室に大切に保管されており、その卒業写真と卒業者名簿と代表者からのメッセージを1ページにまとめて、青春時代の懐かしい思い出を振り返れる

ものにする予定です。また、閉校式並びに記念パーティーを平成26年3月頃に予定しております。現段階でお知らせできることは、看護学院との合同ではなく本校単独で実施予定であることと同窓生全員に案内状を送付することです。日時及び会費等に関しましては、決まり次第お知らせする予定です。「閉校記念誌」につきましては、会報送付と同時に各期の代表者にメッセージをお願ひしたいと考えておりますので、ご協力頂きますようよろしくお願い申し上げます。(木寺英明)



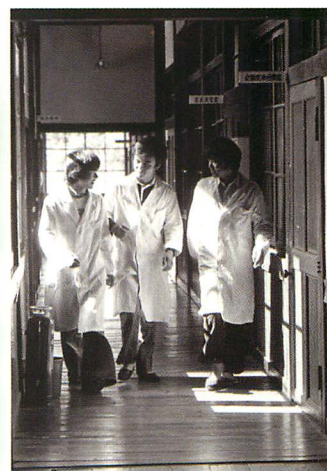
旧校舎の授業風景(30期生)

天理医療大学開学

2年以上におよぶ天理医療大学設立準備室(公益財団法人天理よろづ相談所内)における大学開設準備を経て、ようやく平成23年10月に『学校法人天理よろづ相談所学園 天理医療大学』として、文部科学省より認可されました。

天理医療大学の学則第一条に、『天理医療大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、人に尽くすことを自らのよこびとするという天理教の信条教育を基調として、広く知識を獲得し、医療に関わる専門性の高い技術を習得し、真摯に科学する精神を育み、人に対する深い愛情と自分を律する謙虚な心をもつた人材を育成することを目的とする。』とあります。すなわち、天理教育理念が礎としてある天理医療大学の教育は、この世人間が産み下ろされた元のちびである親里でしかできない唯一の大学である、と読み取ることができます。

天理医療大学には医療学部として1



旧校舎の廊下を歩く学生(11期生)

学部、その下に看護学科と臨床検査学科の2学科が存在します。両学科併せて40名の教員がおり、臨床検査学科は教授6名、准教授3名、講師2名、助教2名、助手1名、特任教員1名の合計15名で構成されております。昨年4月にはじめての1年生が100名余り入学してまいりました。臨床検査学科の学生は現在31名で、男性は17名と男性優位の学年です。1年生の多くの授業は看護学科と臨床検査学科の両学科が一緒になり、天理医学技術学校棟4階にある大教室で行われます。内容は、総合基礎科目としてフレッシュマンセミナー、生命と芸術実践演習等、専門基礎科目として、情報科学演習、医療概論等が行われます。同時に臨床検査専門科目も徐々に進行し、臨床検査学序説、尿一般検査学、臨床検査基礎実習等がスタートしております。

さて、天理医療大学はこれから4年かけて完成を目指します。現在臨床検査学科の教員の内、天理医学技術学校の卒業生は小松(23期生)と山本慶和先生(4期生)の2名です。まだまだ多くの事を準備し遂行していかなければならないのですが、全国からご参集くださった各領域の専門教員の先生方は皆々温厚かつ紳士的です。これに輪をかけて和気藹々、そして一致団結して大学業務を遂行する毎日を過ごしております。お近くにお立ち寄りの際は、どうぞ見学にお越し下さい。(小松方)

天理医学技術学校45周年同窓会 総会および懇親会を終えて

平成24年(2012)3月25日(日)、ウエルカムハウス コトブキ(天理市)において、5年に1度の同窓会総会と懇親会を開催致しました。当日は、227名の出席者(総会員約1300名)があり、総会、記念講演、懇親会が午前10時から午後2時まで和気藹々の中で行われました。

総会には、高橋浩元学校長から来賓のご祝辞をいただき、引続きこの5年間



高橋 浩元学校長からのご祝辞



同窓会総会・懇親会場全景(各期毎に着席)

の事業報告、決算報告、監査報告等が行われました。審議事項では、一部会則の変更(第7条 役員数名↓事務局長、幹事(若干名)、会計、監査)、役員改選を行い、総会を閉会しました。

その後、平成24年度(平成24年4月3日)からの『天理医療大学』開学の節目に、臨床検査学科長に就任された松尾収二先生(元臨床病理部長)に「天理医療大学における臨床検査教育」を演題に、記念講



高橋先生と共に
(6期生、北川ふく(旧姓)さんと大峠和彦さん)

演が行われました。新大学の教育方針、特徴やカリキュラムなどの説明があり、天理医学技術学校の伝統を引き継ぎ、「天理の臨床検査技師」を育成すべく尽力する旨のお話があり、同窓生一同、願いを込めて大きな拍手を送っていました。

懇親会は、森嶋良一幹事(19期・奈良県立医科大学附属病院)の司会で進行され、松尾収二先生のご挨拶と乾杯で開会し、正面スクリーンには昔懐かしい写真のスライドショーが行われる中、それぞれに歓談が和やかに進み、途中で、山中亨元臨床病理部技師長、喜多村昭子元天理医学技術学校教務主任、上田慶子天理医学技術学校副学校長の来賓挨拶をいただきました。互いの親交を深め、更なる元気をもらって、木寺英明副会長の三三七拍子で締めを行い、午後2

時頃閉会となりました。
ご出席いただいた方々には厚く御礼申し上げます。(市村輝義)



お世話になった先生と一緒に
(21期生の皆さん)



同窓会総会の開催を全員の拍手でお祝い

天理医学技術学校同窓会のURL

<http://www.teniko-dousoukai.jp>

上記URLをインターネットブラウザに入力して下さい。
もしくは
「Yahoo」や「Google」の検索ツールから
「天理医学技術学校同窓会」と入力すればヒットします。

同窓会ウェブサイトリニューアル

平成19年に開設しました天理医学技術学校公式ウェブサイト、平成24年11月1日にリニューアルしました。今回は青を基調に明るく感じに仕上げました。コンテンツはまだ十分とは言えませんが、今後充実を図ってまいります。是非一度、ご覧ください。(長岡俊治)



また、Facebookページも作成し、トップページ右下に組み込んでいます。

トップページ

上記URLを入力すると、同窓会のトップページが現れます。

上部にメニューと新旧校舎の写真、左下に更新情報を設置しています。

同窓会のグループは登録されたメンバーのみが投稿と閲覧が可能です。新規登録にはメンバーからの招待が必要ですので、ご希望の方はウェブサイト内のお問い合わせフォームから同窓会事務局に依頼してください。

また、同窓会員の皆様からの投稿やコメントも大歓迎です。ただし、会員の皆様からの投稿は、ウェブサイトには反映されませんのでご安心下さい。なお、投稿するにはFacebookへの登録が必要です。

同窓会のFacebookページと、同窓会のグループがあります。Facebookページには、同窓会役員会の近況報告や、会長からのメッセージ等を投稿する予定です。

Facebook



同窓会長挨拶のページ

お問い合わせフォーム

ウェブサイトのの中には、あらかじめ「お問い合わせ」フォームのページを設置しております。会員の住所および氏名の変更、同窓会事務局へのお問い合わせや要望、Facebookの同窓会グループへの登録申込などにご利用ください。特に住所変更時は、このフォームを利用してご連絡いただけます。ご協力をお願いします。

問い合わせ時は、

- ① 氏名
 - ② 卒業期
 - ③ 返信先のメールアドレス
- を必ずご入力ください。

お問い合わせフォームのスクリーンショット。住所・氏名の変更や、同窓会事務局へのお問い合わせ、要望などにご利用ください。氏名、卒業期、メールアドレスの入力は必須です。入力欄には「氏名」、「卒業期」、「メールアドレス」、「件名」、「本文」があり、送信ボタンが下部にあります。

「お問い合わせ」用フォームのページ

Facebookの使い方

Facebookとは、世界中に8億人以上のユーザーを持つ、世界最大のSocial Networking Service(SNS)です。日本のmixとは異なり、実名で登録が義務付けられています。また、海外ユーザーとのコミュニケーションも可能です。同窓会でもFacebookページを作成し、公開しています。(長岡俊治)

Facebookのユーザー登録方法

① Facebookのトップページへ
http://www.facebook.com)にアクセス。必要事項を入力し、アカウント登録をクリック



② 友達を検索し、保存して続行又はスキップ(後で追加可能)

③ プロフィール情報を入力し、保存して続行又はスキップ(後で追加・変更可能)



④ 興味・関心を選択し、保存して続行又はスキップ(後で選択可能)

⑤ プロフィール写真を設定し、保存して続行又はスキップ(後で選択・変更可能)

⑥ メールをチェックをクリックしメールを開く



⑦ メールリンクをクリックし、登録を完了する

同窓会ページへの投稿方法

① 「何か書く...」をクリックし、書きたいことを記入する。

② 友達を検索し、保存して続行又はスキップ(後で追加可能)



「天理」と私の不思議な「縁」

関西医療大学はり灸・スポーツトレーナー学科長

第1期生 煤田高志

私は天理衛生検査技師学校の1期生です。自ら検査技師になりたくて「天理」を目指した訳ではなく自然と「天理」に導かれたという「縁」があります。卒業してから地元の大和高田市立病院へ5年間奉職し、昭和51年4月から天理「憩の家」で麻酔科部長であった末包慶太教授との「縁」で、近畿大学医学部麻酔科学教室（大阪狭山市）へ移動しました。附属病院では中央手術部検査室を管理運営し、手術部・ICUの細菌学的・医用工学的な安全管理に力を注ぎました。また針麻酔がきっかけで3年間東洋医学も勉強する機会を得ました。

研究面では「憩の家」から赴任された石部裕一先生（現山陰労災病院院長）、中村正人先生（現育和会記念病院副理事長）と共にイヌやウサギを用いて主に「肺の血管外水分量」に関する研究を長年行ってきました。平成7年に医学博士を取得し、それを機会に、まったく臨床検査技師の世界と異なる鍼灸教育界へ移動しました。現在は、関西国際空港近くにある「関西医療大学」のはり灸・スポーツトレーナー学科で学科長として鍼灸師やスポーツ

トレーナーの育成に力を注いでいます。

私は平成26年3月には定年を迎える予定でありました。ところが、我が大学で臨床検査学科を設立するという事になり、設立準備の委員に命ぜられました。

「天理」との「縁」は、石部、中村両先生で終わりではなかったのです。さらに「縁」があつて「天理」の市村輝義君に臨床検査学科設立の助けをもらうこととなり、平成25年4月に開設する運びでとなりました。

「天理」を離れて40年を過ぎ、臨床検査を離れ15年が過ぎました。偶然というか天命というか、定年決定の間際に再び臨床検査の道にもどるといふ臨床検査との「縁」や「憩の家」7階手術室の臨床病理分室で共に働いた市村君との再会は不思議な「縁」としか言いようがありません。「天理」との「縁」はまだまだ続くと信じていますが、臨床検査技師の教育に取り組むことへの喜びと不安が交錯する日々が続いています。

「臨床検査」との「縁」へ、そして「天理」との「縁」を大切にし、後輩の皆さんの力と叡智を借り、母校の天理医学技術学校（現天理医療大学）に負けない社会に役立つ素晴らしい医療人を育てたいと願っています。

人生のみちすがら

神戸学院大学栄養学部客員教授

吉田小野原東診療所

元国立大阪南医療センター技師長

第2期生 増田喜一

今から42年前に本校を卒業した二期生の増田です。夜間生であった昼間は憩の家の臨床病理部で検査助手として働き、夜は学校で勉学に励んだことが懐かしく思い出されます。当時は臨床化学検査の全盛期ではありませんでしたが、学生時代から興味があつた生理機能検査の道を志し、憩の家臨床病理部電気生理検査室に就職することができました。そこには生涯のライフワークともなる超音波検査との衝撃的な出会いがあつたのです。

東洋一の設備を誇る憩の家には、なんと日本に3台しか無かつた超音波診断装置がなぜか脳波室に整備されていたのです。通常生理機能検査は生体現象を波形として捉え記録されますが、画像として捉える超音波検査は魚群探知の原理でご存じのように生体の異常をビジュワルに観察できる診断法として誕生しました。CT検査やMRI検査が未だ実用化されていない時代でしたので、今までに見たこともない何か真新

しさに魅了され、即座に超音波検査の虜になつたのも云うまでもありません。

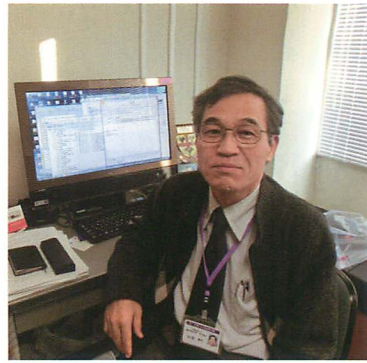
さて、ちょうど中堅技師として仲間入りをする頃、私にとつて人生を左右する大きな転機が訪れたのです。超音波検査の中でも専ら心エコー検査を担当していましたが、本邦初の心臓専用リアルタイム電子走査型超音波断層装置が国立循環器病センター（現国立循環器病研究センター）に導入されたのです。心臓内の弁や壁運動が動画で観察できるこの画期的な診断装置を使つてみたい一念が新天地へと心が導かれたのです。それには超難関を突破しなければならなかつたのです。この道に導いて下さつたN教会長（元表統領・故人）と上司のT検査部長（学校長）の両先生にお許しを頂きに伺つたところ、お二人とも「天理魂を世の中に広めてい」と偶然にも同じようなお言葉を頂き快く送り出して頂いたのです。お二人のお言葉は今でも私の生涯における心の支えとなつていきます。

最後になりましたがライフワークである超音波検査は、まだまだ「人生のみちすがら」であり、到達点には辿りつけそうにもありません。でも一歩一歩少しでも前に進めるようにこれからも努力したいと考えています。
頑張れ!!

天理(医学技術学校)気質

天理医療大学医療学部臨床検査学科 特任教員

第4期生 山本慶和



第4期生
天理医療大学医療学部 特任教員
前 天理よろづ相談所病院臨床病理部技師長
専門:生化学、臨床化学、検査管理総論

いきなりですが、天理医学技術学校気質なるものがあるのか考えてみたいとおもいます。ただし、天理よろづ相談所病院に長くいたものの見方と断りを入れおきます。

今年も、全期生が一堂に会した同窓会が開催されましたが、5年毎に集まることが、医技校気質の一つでしょうか。高橋先生が皆をひきつけ、恩師・先輩に一目逢いたい気持ちはどこかで繋がっているのです。さて、その元なるものは何だろうか。

一つは、学内の講義・実習の指導は学校の先生を含めほとんどが先輩であ

り、臨地実習の6ヶ月、研究実習の4ヶ月を病院で先輩(

技師)の指導を受けたことにあります。良しにつけ悪し

きにつけ(良いほうが多いと思うが)先輩の影響を大いに浴びました。先生・先輩の言葉、実習における優しい、あるいはきつい指導、研究実習の手取り足取りの指導は、天理でしか味わえない濃密なもの(寺子屋式)であったといえます。

では、こうしたものを支える原点(大げさですが)は何なのでしょう。それは臨床病理部の検査に対する姿勢にあると考えます。文字に表しますと逃げているようですが、検査データへの拘り、自分たちで道を切り開く気概、ひのきしん精神、検査情報をもって診療に直接参加し貢献したいとする気概、検査室の体制が診療を動かす(変える)という姿勢など、そして学生を育てたいとする熱い気持があるように思います。おそらく、先輩一人ひとりとは独特の異なる姿勢で学生に当たっているのでしょうが、多くの先輩に接することによって目に見えない源流がかもしたされているものと思えます。

医技校生はあと2期となったこの時に、天理医学技術学校気質を見つめて、天理医療大学の学生に何を伝え(指導)、何をたしてひくのか、難しいことですが誤りを恐れず考えて見ます。やはり大事なものは、ひのきしん精神の人につくす心(人として)をベースに、実践的技術の修得、周りとの協調性、問題解決能力と現状分析能力、切磋琢磨、周りに影響を与える気構えなどなどでしょうか。前半3つは間違いなくあるように思いますが、後半3つは医技校気質に十分と云い難いものであったように感じます。

さて、みなさんはどのように思いをめぐらしておられますか。



天理看護学院棟4、5階 正面 「一手一つ」揮毫額



天理医学技術学校 旧校舎 冬景色

《編集後記》

母校である医学技術学校があと1年3ヶ月で幕を閉じようとしています。この時期に、会報をたちあげることになり母校の最後をしっかりと見届け会員に届けられることを嬉しく思います。会報は年1〜2回の発行を目指しています。先輩方の原稿はどれも後輩の育成と今後の臨床検査への熱い思いに溢れていて自分自身にとってまた明日からの刺激となりました。会報を通して医療大学の最新情報や卒業生の声を伝え、臨床検査について考え、絆を深める機会になるよう作り上げていきたいと思えます。(脇本理栄子)